

平成22年度 工芸技術記録映画

企画 文化庁 製作 グループ現代

# 鑄金

ちゅうきん

大澤光民のわざ





## 鑄金は、溶かした金属を 鑄型に流し固めて造形する技法である。

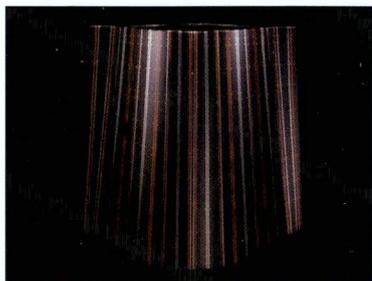
重要無形文化財「鑄金」の保持者である大澤光民<sup>おおざわこうみん</sup>は、高岡の伝統的な焼型鑄造の技法を高度に体得し、さらに鑄ぐるみという独自の技法を編み出し、独創的な世界をつくりだした。

鑄ぐるみとは、焼型でつくった堅牢な鑄型に、金属の線や釘を固定してから鑄込み、装飾的な文様を作品の表面に浮かび上がらせる技法だ。

この映画は、大澤光民が鑄ぐるみ鑄銅花器『地から宙から』<sup>そら</sup>を完成させるまでの制作工程を、映像で克明に記録したものである。

この作品には、大澤の高度な焼型鑄造の技量と、独自のわざ・鑄ぐるみの面白さが、二度に亘る複雑な鑄造の工程を通して最大限に表現されている。

# 作品解説



## プロローグ

大地をあらわす、漆黒に輝く青銅。太陽の赤い銅線。そして月の光は、白いステンレスの線。自然の美を金属の色彩であらわした鑄金作家・大澤光民の世界がここにある。



## 鑄金作家・大澤光民

溶かした金属を鑄型に流し込み、固めて造形する技法を鑄金という。大澤光民は、平成 17 年に重要無形文化財・鑄金の保持者に認定された。



## 高岡鑄物の歴史

大澤の住む高岡市は、江戸時代初期から鑄物製造が盛んである。明治時代には、高岡の製品が万国博覧会などに出品され、国際的にも高く評価された。高岡には今も当時の伝統が受け継がれている。



## 焼型鑄造法と鑄ぐるみ

焼型鑄造法は、原型を土で型取りし、鑄型を900度近い温度で焼いてから鑄込みを行う伝統的な鑄造技法である。鑄ぐるみとは、焼型でつくった鑄型に金属の線や釘を固定してから鑄込み、装飾的な文様を作品の表面に浮かび上がらせる技法である。



## 作品の意匠構想

「地から宙から」と題する、銅鐸の形をした花器を制作する。焼型鑄造の特色と鑄ぐるみの面白さを最大限に活かしたものにするため、大澤は作品の青銅と黄銅の部分を別々に制作し、最後に鑄造で一体にするという、初めての試みを行った。



## 土作り

鑄型づくりには、さまざまな土が使われる。中でも焼真土は、その基本的な素材となる。



## 一度目の鑄造 ——外型づくり

作品の原型を土で型取りする鑄型づくり。鑄型は、外型と中子に分かれる。まず、基盤となる台型を原型の半分を埋めてつくる。その上から表裏両面の外型をつくる。



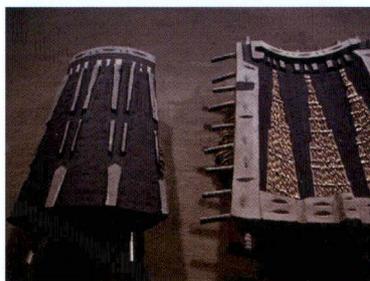
## 一度目の鑄造 ——鑄ぐるみ

一度目の鑄造では、青銅の部分を鑄造する。外型に銅線やステンレス線とステンレスの釘を固定する。これらの材料が、鑄ぐるみの文様となる。線や釘は、鑄込みの際、注ぎ込まれた金属にくるまれ、作品の表面に線や点のような文様となってあらわれる。



## 一度目の鑄造 ——中子づくり

鑄型の中子づくり。まず外型に、作品の厚みとなる部分をはり土でつくる。その上から、作品の内側となる中子をつくる。



## 一度目の鑄造 ——焼成前の準備

外型と中子に耐熱処理をして、外型と中子を貼り合わせる。外型と中子の隙間が、作品の厚みとなる。



## 一度目の鑄造 ——焼成と鑄込み

焼成炉で鑄型を焼成する。焼成を待つ間、溶解炉では青銅を溶かす。焼成された鑄型の冷め具合を見計らって溶けた青銅を鑄型に流し込み、鑄込みをする。

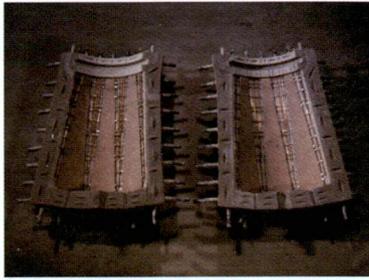


## 鑄型の型ばらし

鑄型が冷めた翌日、鑄型をばらして青銅の鑄物を取り出す。湯道の部分を切り落とし、青銅の部分が切り出される。大澤はこの青銅の部分をつくるために、一度目の鑄造を行った。

# 鑄金

ちゅうぎん  
大澤光民のわざ



## 二回目の鑄造

この青銅の部分を、新たにつくり直した外型に固定する。そして黄銅で二度目の鑄込みをして一体にする。そうすることで、青銅の黒と黄銅の黄色が際立つ二色の花器が出来るはずだ。



## 仕上げ

型ばらしをした作品全体の表面を、金属ヤスリで約1ミリほど削り出す。その後、紙ヤスリで表面が鏡のようになるまで磨き、鑄ぐるみの文様部分を研ぎだす。



## 着色

大澤は、着色の技術者と作品の仕上がりのイメージを綿密に相談した。着色の技術者の手により、作品は大澤のイメージ通りの色へと変化していく。



## エピローグ 鑄ぐるみ鑄銅花器 「地から宙から」作品完成

四ヶ月もの制作期間を経て、ついに大澤は作品を完成させた。伝統的な焼型鑄造と、独自の技法である鑄ぐるみの融合。大澤のわざの新境地である。



## 撮影協力

嶋 悦至 (嶋モデリング)  
立川 善治 (立川美術着色所)  
鳥田 宗吾 (鳥田象嵌工房)  
新田 翔 (大澤光民助手)  
イオンモール高岡  
高岡市美術館  
財団法人高岡地域地場産業センター  
東京国立博物館  
読売新聞東京本社

## スタッフ

制作	鈴木 正義
監督	小泉 修吉
脚本	今井 友樹
撮影	堀田 泰寛
撮影助手	秋葉 清功 永山 正史
照明	伴野 功
編集	戸嶋 志津子
ネガ編集	加納 宗子
スタジオ	東京テレビセンター
選曲	鈴木 勉
現像	ヨコシネ D.I.A.
撮影機材	有限会社アシスト
フィルム	富士フィルム株式会社 報映産業株式会社
語り	糸 博

平成22年度 工芸技術記録映画

企画 文化庁 製作 グループ現代

35ミリ/カラー/36分 ©GROUP GENDAI FILMS CO.,LTD.